



## 北部会 市民公開講座

講師：北海道大・院・薬学研・代謝分析学 鎌滝哲也 教授

### 遺伝子が決める私たちの体質

—酒に弱い体質，薬の副作用が出る体質，たばこを吸って肺がんになりやすい体質—

日時：2005年10月5日(水) 19:00～20:30

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

2005年10月5日，第56回北部会の企画（世話人：長友孝文）として市民公開講座が開かれました。生命科学の研究分野はポストゲノムの時代といわれ，ゲノミクスやプロテオミクスなど，かつてない急速な展開を見せています。また，遺伝情報に基づいた「テーラーメイド医療」が提唱されています。一方，一般の方々の医療に対する関心や期待が，これまで以上に高まっていることを肌で感じます。そこで，一般市民にとって身近な存在である“お薬”を通して，将来の医療の可能性，特にテーラーメイド医療に触れて頂くことを主眼に企画しました。講師には，テーラーメイド医療の開拓者である鎌滝哲也教授にお願いしました。

当日は開演の1時間前から参加者の来場が途絶えず，開演時には400席近く用意した席がほぼ埋め尽くされました。その後も，仕事帰りの方や授業を終えた学生などが駆けつけ席が足りなくなり，スタッフがあわてて予備の椅子を持ち込みました。10代から80過ぎの方まで幅広い年齢層から参加を頂きました。社会人の方々では，やはり薬剤師などの医療従事者や製薬系企業に勤務の方が目立ちました。もちろん，薬を専門としない方も多く参加下さいましたし，ご夫婦での参加が多かったことも印象的でした。

さて，長友教授から講座の趣旨および鎌滝先生の御略歴等の紹介があり，いよいよ講演が始まりました。まず，薬は「諸刃の剣」であり，使い方によっては“毒”にもなり得るという話から始まりました。正しい使用方法に関連して，使用だけでなく製造から販売段階も厳しい法律に基づいて行われていること，“薬の乱用”は法律的にも使用者の健康面からも決してあってはならない行為であること，そして，治療薬を正しく使っても体質によって効き方あるいは副作用に違いの出る可能性があることが説明されました。この体質が何に起因するのかについて，遺伝子レベルから説かれました。さらに，薬物代謝機構について説明があり，代謝活性は遺伝子レベルの調節を受けていること，代謝活



性を考慮すれば各個人に対してより適切で有効な薬物治療法を見いだせることの説明がありました。この原理を応用するのがテーラーメイド医療であり，医療における一つの目標であることが示されました。また，ゲノムプロジェクトのこと，このプロジェクトがもたらす基礎研究，創薬やテーラーメイド医療を含む将来の医療への影響についての話があり，最後に，環境から発生するリスクや自分自身に内包されたリスクなど，私たちは多くのリスクを抱えているが，これらと上手に付き合うことによって健康に楽しく暮らすことができると結ばれました。講演終了後に，質疑応答の時間を設けました。医療従事者からは，投薬の実例についての相談やテーラーメイド医療に関する質問などがありました。また，一般の方からはご自身の血縁における癌発症の遺伝的背景などについての質問がありました。さらに閉会后，学生が鎌滝先生を囲み質問攻めにしてしまいましたが，鎌滝先生は，丁寧に一人一人に対応されました。

会場を後にされる聴講者の顔を拝見すると，充実した面持ちで，スタッフに声を掛けて下さる方すらおられました。薬をはじめ医療への関心と期待の高いことを改めて痛感しました。

最後になりましたが，この場をお借りし，鎌滝先生はじめ参加者各位および関係者各位に心よりお礼申し上げます。  
(大貫敏男 Toshio Ohnuki)